

平成29年度 関東高等学校バスケットボール新人大会 派遣報告書

東京都所属審判員
桑原 一貴

| | | |
|---|---------|---|
| 1 | 派遣事業名 | 関東高等学校バスケットボール新人大会 |
| 2 | 大会名 | 関東高等学校バスケットボール新人大会 |
| 3 | 派遣期間 | 平成30年2月9日(金) 平成30年2月10日(土) 平成30年2月11日(日) |
| 5 | 開催地・会場 | 栃木県宇都宮市(男子会場):清原体育館 栃木県小山市(女子会場):白鷗大学 |
| 6 | 実施内容 | 9日:審判会議 10日-11日:大会 |
| 7 | 関東協会審判員 | 渡邊整 氏(栃木県) / 三好啓太 氏(千葉県) |
| | 指名審判員 | 清水幹治 氏(神奈川県) / 久保知仁 氏(千葉県) |
| | 派遣審判員 | 佐藤弘之 氏(群馬県)/一色渉 氏(茨城県)/大川尚 氏(千葉県) 竹澤友美 氏(埼玉県)/和嶋陽一 氏(東京都)/大庭英裕 氏(神奈川県) 佐田幸一 氏(山梨県)/菊池真吾 氏(群馬県)/穂川苑子 氏(群馬県) 二宮隆二 氏(茨城県)/川北聖人 氏(茨城県)/中島弘幸 氏(千葉県) 林原潤 氏(千葉県)/安西郷史 氏(埼玉県)/大井陽平 氏(埼玉県) 長尾繁徳 氏(東京都)/長谷川裕 氏(神奈川県)/青木太一 氏(神奈川県) 丸山淳 氏(山梨県)/荻野健 氏(山梨県)/桑原一貴(東京都) |
| 9 | 内容 | 2月9日(金) 審判会議 |
| | | <p>今回関東新人大会開催の前日金曜日に、審判会議が県内会議室で行われた。内容は大きく、以下の2点があげられる。</p> <p>1)久保知仁 氏による『大会に臨む心構え』 2)清水幹治 氏によるプレーコールガイドラインに沿った判定基準について</p> <p>1)久保氏からは、大会を運営していく上でコート上に限らずコートの内外での心構えについてお話をいただきました。</p> <p>審判員としてコートの上では、クルーとのコミュニケーションや共通認識を持ちながら運営していくことの重要性を感じた。試合が開始してから様々な情報共有を行うのではなく事前のチームの情報や特徴を知っておく習慣をつけるようにしたいと感じた。また1人で行う審判ではないので、試合前にもクルー同士での会話や仲間意識を持ちながら過ごすことが試合でも円滑なクルーワークが発揮できる場合もあるので積極的なコミュニケーションの重要性も再認識ができた。</p> <p>関東新人の特徴として高校生のTOや運営の方などの協力があった。試合中にTOなどのトラブルがあったときにオフィシャルの仲間として、審判以外のことについてもしっかりと把握しておきながらTOの責任にするのではなく審判として把握しながら対応するよという共通認識を持った。</p> <p>派遣審判においては、各都県を代表して参加しているということの心構えについてもお話があった。都県を代表するという点で、見られる立場という自覚と責任を持つことと自身の心身の準備と経験の今後の自分自身に限らず都県への還元を求められる立場ということの認識についてもお話をいただいた。</p> <p>最後に、派遣審判として大会に参加しながら審判へ集中できる環境を作っていたのは開催県でもある栃木県バスケットボール協会の方々の御尽力があつた環境であることについてお話があった。移動や運営など審判以外にも様々な部署の方の協力があつた大会運営であることについて再認識をすることができた。</p> <p>2)清水氏からは、Bリーグの映像を用いたガイドラインについての解説があつた。全体的な流れとしては、ガイドラインの項目に沿った映像を見て判定のすり合わせを行う形式でおこなわれた。実際に映像をみて、自分が実際にコートに立った時に“いつ”“どのような種類”で判定をするのかという点についても注目しておこなわれた。</p> <p>判定する瞬間については、審判会議に参加した派遣審判および栃木県審判員全体でも様々な意見が垣間見えた。判定に関しても、意見が全く違う意見などもあつた。このように映像を見ての会議を行うことで、実際2日間を通してガイドラインに沿った判定がコート上でも見られたことでとても有意義な時間を過ごすことができたと感じた。</p> <p>この審判会議から最も今後に生かしたいと感じた点は、『可視化できるものでの共有』ということがあげられるのではないかと感じた。映像を見ずにお互いの経験などから、ケースについて話すことも良いこととは思いますが実際に話している内容と想像している映像が一致しているとは限らないというデメリットを今回感じた。しかし、今回のように映像でお互いに目に見えることで共通のイメージを持った状態でコートに立てることは精神的にも安心してコートに立てるのではないかと感じた。</p> |

| | | |
|----|------------------|---|
| | | 2月10日(土) |
| | | 担当した試合について |
| | 対戦カード | 日本体育大学柏高等学校(千葉県)ー県立宇都宮工業高等学校(栃木県) |
| | 相手審判 | 主審:佐田幸一 氏(山梨県) |
| | 試合内容 | 日本体育大学柏高等学校(千葉県)ー県立宇都宮工業高等学校(栃木県) 戦評 |
| 内容 | プレゲームカンファレンスについて | <p>試合前に確認したことについては、大会の開幕する試合ということでコートの不備や機材の特徴もしっかりと確認した上で試合を正しく始めるということから確認しました。タイマー系のものがホーンと連動をしているか手動で併行して鳴らす必要があるかなどを確認しました。</p> <p>次にチームの特徴については、パンフレットで登録している選手やスタッフの確認を行うことができたが特徴という情報は互いに持ち合わせていない状態でした。外国籍選手がいることについてメカニクス上の確認が必要ということでメカニクスについても確認しました。2POということもあり、トレイルサイドへ行くか否かに関してはフロアバランスや攻め方によるものもあるということで外国籍選手のポストアップに必ずしもリードレフリーの右サイドへの移動が必要という考えは持たないにしようという共通認識を持って望みました。</p> |
| | 試合後のミーティングについて | <p>主任は、大川尚 氏(千葉県)がおこなっていただきました。大川氏からは、大きく2点についてお話をいただきました。</p> <p>1点目は、ガイドラインについてでした。プロテクトシューターやハンドチェックに関しても判定をしていないわけではないが、試合を通じて判定をできているときとできていない時の差があることについてご指摘いただきました。特にトレイルオフィシャルの際に、オフェンスやディフェンスの状態などを把握しながらポジションアジャストをしつかりと行えると鳴らすことができたのではないかとアドバイスをいただきました。実際に試合中に自分自身の責任エリアにも関わらず、ポジションが悪く判定の根拠が薄く鳴らすことができない場面があり今後は判定する場所にもさらにこだわりながらコートに立ちたいと感じました。</p> <p>2点目は、プレーの始まりなどをより意識することです。シュートや大きいインパクトについては、鳴らす判定はできているがシュートの前やオフボールで小さいコンタクトに関しても悪い判定やボールコントロールを失う原因となった接触が事象が起きる前にもあったのではないかと反省をいただきました。外国籍選手のオフェンスファウルなど大きなインパクトに関しては判定をしているが、オフェンスが悪いことや強引に攻める前にイリーガルな守り方などでストレスを溜めているケースも見受けられたので早く自分の責任エリアで起きている現象について目を配ることで判定の情報が多く得られるということを教えていただきました。</p> <p>2点については、独立したものではなく情報を多く持ちながら常にポジションを変えながら正しい判定に繋がるような工夫が今後も必要と感じました。</p> |
| 10 | 感想 | <p>私自身、初めての関東大会への派遣をさせていただきました。派遣に際して、初めての体験を多くさせていただけました。</p> <p>中でも最も今後の活動にすぐにも活用ができると感じたことは、審判会議での経験でした。清水氏よりご紹介いただいたガイドラインに沿った映像を用いての判定に関する考え方について、派遣審判員での意見の交換を行えたことはとても有意義な時間を過ごすことができました。上記、審判会議についてでもまとめたように同じ映像でも様々な意見があるということがありました。今回の関東大会派遣に関しては、映像を同じ回数で見ても意見の交換をおこないました。しかし、映像に限らず実際にコートの外でも同じ審判員仲間でも明日からできることであると同時に感じました。平素から仲間同士でも同じ試合を見ながら、判定やメカニクスをたえずディスカッションをすることで考え方や捉え方の違いなどを認識することができると感じました。この方法については、今回の審判会議などの機会も持たずとも自連盟に戻っても積極的に活用したいと感じました。</p> <p>また高校生の試合を年間通しても数多く担当する機会が少ないので、私自身のバスケットボールの知識が不足していることを実感しました。速い攻撃のチームや積極的なディフェンスをする高校生のバスケットに対して知識や攻撃の特徴を試合中にいち早く捉える技術の不足を実感しました。審判員としての審判のスキルに加えて、バスケットの知識や技術についても更に勉強を進めたいと実感しました。</p> <p>最後に、今大会では事前に関東協会をはじめ栃木県バスケットボール協会所蔵審判員をはじめ競技委員の方、地元高校生のご尽力のおかげで私たち派遣審判員が集中して大会へ参加できたと感じました。会場に限らず輸送やホテルでも地元協会の方のご配慮が沢山ありました。この場をお借りしまして、感謝申し上げます。ありがとうございます。</p> <p>今大会派遣にあたり、推薦していただきました久保審判委員長をはじめ平素よりご指導いただいております東京都バスケットボール協会、関東実業団バスケットボール連盟の皆様へ感謝申し上げます。</p> |